

## 「健康政策」の臨界点

鶴本 明久

(鶴見大学予防歯科学講座 教授)

深井 編集長殿

前略

今回も深井編集長への手紙になってしまいました。

早いもので鶴見大学の予防歯科を主催させていただき3年が過ぎました。この3年間というもののほとんど個人的にも、教室にとっても何の成果も創られぬまま、いったい何をしてきたのか判然としません。にもかかわらず、これまでの人生の中で最も多忙でありました。単に雑用が多いと言うことだけではなかったような気がします。むしろ大変興味ある面白い仕事をさせていただいていると思っています。それを成果に結びつけることができなかつたのは何故でしょうか。現在でも、完全にキャパシティを越えていると悲鳴を上げるほどに走り回っています。この矛盾は、このままの状況すなわち「ものすごく多忙なのに何をしたら判らない」状況がずっとつづき、やれやれと言ったところで終着するのではないかという漠然とした不安をもたらします。

振り返って考えてみると、成果に執着しすぎたの非常な焦りが、何もかも急がせ過ぎた結果ではないかと反省しています。教室の運営にしても、現状をモニターせず新しいことばかり導入していることで、不適應による空中分解を起こしているようです。新しいアイデアで色々なことを試行してみることは悪いことではないと思います。しかし、全体のストーリーやシナリオを良く見な

いで進むことが、結局は目的を見失い、方向性をなくすことになっているようです。

ところで雑用も含めて、どうしてこんなにやるべきことが多いのでしょうか。世の中的には、価値の多様性とか情報流通革命と言うことで、それに対応できるシステムを作っている過渡期だと説明されています。歯科保健サービスも同じような状況の中にあるのでしょうか。ヘルスプロモーションも、そのような個人の価値観を基盤とした多様性の一つのプラットフォームとしてあるのかもしれませんが。このプラットフォームはコンピュータ用語でOSや基本ソフトなどのことを意味するようですが、健康政策を進める際の保健情報やサービス等の評価のための基本システムにあてはめてみました。そういうふうと考えてみると、ヘルスプロモーション、EBM、risk strategy、様々の保健行動モデルや医療経済モデルなどたくさんのプラットフォームが提起されています。この事は、良きにつけ、悪きにつけ、混沌（カオス）の中に健康問題もあるといえるようです。

「複雑系」による経済理論の中に、よく解らないのですが「収穫増」というのがあります。この「収穫増」が、そろそろ健康問題の中で起きないかと考えています。「収穫増」は、ある新しいことが普及する際に最初は多くのプラットフォーム（システム）が乱立し、相互作用の中で競争を繰り返すが、「普及の臨界点」を最初に越えたものがその領域を統一し、征服するというも

ので、例としてはOSのWindowsやビデオのVHSがあります。健康問題においても、いま「カオスの淵」にあって、そろそろ一つのシステムに収斂しないかと言うことです。臨界点を最初に越えるのがヘルスプロモーションではないかという、かなり楽観的な考え方です。Windowsの勝利でも解るように、臨界点を越えるものが特に優れているとか、強大なパワーを持っていると言ったことでもないようです。臨界点のタイミングを的確に捉え、有効な戦略を進めることのように。いまがそのタイミングだとしたらどうでしょう。また、もし臨界点を市場経済原理やEBMのプラットフォームに先に乗れ越えられたらどうなるのでしょうか。健康問題に関する解決策のそれぞれですから、Windowsやマックのような対立関係にはないので、意味のない議論かもしれませんが、直感的にとってもまずいことになりそうな気がします。いずれにしても「収獲逡増」の理論を歯科保健サービスにあてはめてみるのは如何でしょうか。

「収獲逡増」もそうですが、歯科保健サービス提供について、マーケティング理論で考えることも一つの切り口ではないかと思っています。これは、市場経済原理で歯科保健サービスのシステムを考えるとというのではありません。様々な価値観があって、色々なことが提供されているカオスの中にある時にBreak throughの起点となるもの、統合の方向性を決定するもの、それらの法則がマーケティングにあるように思えます。サービスの受け手であるマーケット（住民、クライアント）の意志が最も正しい判断をするのではないかという考えです。あらためてGrennの「ヘルスプロモーション」をひらくと、多くの部分にマーケティング理論が当てはまることに気づきます。ヘルスプロモーションとマーケティング理論は、意外と同じような理念や目的を持っているのかもしれませんが。人によっては、何をいまさらと言うことかもしれませんね。

今回の深井編集長への手紙の結論は、「焦らずにしばらくゆっくりと自分が進んでいるストー

リーを考えてみるのが大切」ということにします。

次回こそは論文を投稿したいと思います。この健康科学誌の発展を心よりお祈り申し上げます。

草々

平成17年1月11日

---

【著者連絡先】

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3

鶴見大学歯学部予防歯科学講座

鶴本明久

Tel : 045-581-1001 Fax : 045-573-9594

E-mail : tsurumoto-a@tsurumi-u.ac.jp